

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

日 時：平成27年8月10日（月曜） 13時30分から 15時25分まで

場 所：習志野市役所仮庁舎3階 大会議室

委員出席者：朝倉委員（会長）、田村委員（副会長）、寺木委員、師橋委員、時田委員、菅野委員、有田委員、小林委員、古賀委員、布川委員

事務局出席者：諏訪企画政策部長、遠山企画政策部次長

真田企画政策課長、越川主幹、伊藤主任主事、柴垣主任主事

議 題：（1）習志野市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」及び「総合戦略」について
（2）その他

議 事 録：

会長	開 会 ただいまより、第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは次第に従いまして議題を進めさせていただきます。 議題(1)習志野市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」及び 「総合戦略」について <資料5に基づき事務局より説明>
会長	ありがとうございます。資料5は、総合戦略の中でも人口ビジョンに該当する箇所になります。現況分析・課題を出すところになり、その後、資料5－1の総合戦略に繋がる資料になります。 事前に配布されていなかった委員がいらっしゃったということですが、内容についてご意見・ご質問がありましたらいただきたいと思います。
寺木委員	コーホート法により人口を推計されていることでしたが、大規模な開発を実施すると社会増があるとの説明がありました。大規模な開発を行うことで住宅の戸数が増加し、人口に影響があるかと思いますが、そのような結果にはならなかったのですか。それとも住宅の戸数が増加することは考慮していないのですか。
事務局	奏の杜は、何もなかった場所に大規模な開発を実施し、開発人口の数は押さえていました。
寺木委員	大規模な開発を実施した場所は建物自体が無いため人が住んでいません

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	が、建物が建つと住む人、出ていく人が発生するはずですが、その影響は、その後の社会増減に影響が発生するはずですが、人口推計ではどのように表れていますか。
事務局	ここの開発人口は説明のとおり、もともとの推計値にこれから住む人口を足しています。平成 28 年度には何千世帯が住むと予測し、男女ごと、年齢区分ごとにニーズを足していきます。その上で社会増減率、生残率等を考え、コーホート法により分析をしています。
寺木委員	そのような方法であれば、今後、新しく開発する地区に対しては社会移動のデータが無いかと思います。
事務局	社会移動は、市全体の過去 10 年間の平均値で計算をしています。厳密にいうと、更に地域毎に再計算を行っています。そのため、奏の杜であれば谷津地域の数値を用いています。
会長	28 ページと 29 ページのシミュレーション図について、パターン 1 が市独自集計で、シミュレーション 1 と 2 は何か対策を行った場合の推計だと思います。平成 53 年には 8 千人程度減少することが分かりますが、市にとって 8 千人減少することがどの程度意味のあることなのか、計画で上手く表現する方法はありますか。今後、市の人口は 8 千人減少していきますが、どの程度インパクトを与えるか示した方が良いかと思います。現状の数値に合わせつつ、かつ中身が重要です。今の社会を支えながら現状のままにしていけるには、どの程度のことをしなければならないのでしょうか。数字が独り歩きしない形で示していただけたらと思います。その辺はご検討いただけないでしょうか。
事務局	今後、検討します。
菅野委員	市民意識調査結果の 38 ページでは「住みやすいは 8 割半ば」との記載がありますが、30～34 歳以降は少し下がった結果になっています。39 ページでは、「住み良いと感じる理由」と「住みにくいと感じる理由」の集計結果からは、住みにくいと感じる人の割合が多いと感じます。教育や子育てなどが問題になるのでしょうか。 一方、学生アンケートでは「情報の発信が足りない」との結果があり、行政がしっかり取り組んでいることがうまく伝わっていない可能性があります。この辺りの内容が行政と市民のギャップ感があります。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	商工会議所において意見交換会を開催した際、本市の特色として、子育ての話が出されました。一方、アンケートからは満足されていない方が少なからずいることから、そのようなところにヒントがあるかと思います。
会長	「住みやすさ」で20～24歳の満足度が高い理由は何かあるのでしょうか。恐らく「住みやすい」と感じる理由、もしくは「住みにくい」と感じる理由と年齢とのクロスを取ると理由が見えてくるのではないのでしょうか。 他にご意見はいかがでしょうか。それでは、人口ビジョンにつきましては一旦置かせていただきまして、この後、総合戦略の議論いただく際に人口ビジョンではどうなっているかなど繋がっていくかと思います。資料5－1に基づいて事務局よりご説明いただいた後、議論をお願いしたいと思います。 ＜資料5－1に基づき事務局より説明＞
会長	ありがとうございます。先程、資料で前回のご意見と追加のご意見をお配りいただいたので、確認しながら進めたいと思います。まず、1番の菅野委員の八千代市の件は資料でご説明いただきました。2番の小林委員、布川委員から広域連携の推進ということで前回ご意見を賜っていますが、この件につきましてどの辺りで述べられていますか。
事務局	具体的な施策の中身はまだ書けていませんが、25ページの（カ）周辺及び広域における他自治体との連携の形成において、南房総市、山梨県富士吉田市、京都府京田辺市、群馬県上野村の4都市を交流都市として連携を図ることを考えています。また、千葉市、船橋市など近隣市町で構成されている会議がありますので、そちらで連携について協議を行う予定としています。
会長	協議した結果は、総合戦略の中に反映されるということでよろしいでしょうか。
事務局	出来るだけ反映していきたいと考えています。
会長	小林委員からはご意見ありますか。
小林委員	総合戦略を早々と発表している京丹後市は、信州大学繊維学部と連携して総合戦略を進めていました。何のために、何をやる連携なのかを研ぎ澄ました方が効果的かと思います。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	古賀委員からはご意見ありますか。
古賀委員	特にありません。
会長	若者の定着定住とはどのような考えですか。
事務局	11 ページの具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）で反映出来ればと思っています。13 ページの「地元大学等の活性化と協働による地域の成長力の向上」では大学や事業者との連携による若者の市内への定住、17 ページの「若者の市内・近隣への就業の促進」では、大学や事業者と連携して就業を促進し若者の定着を考えています。
師橋委員	ローカルアベノミクスに関連して、現在、大学の定員は約 1.2 倍の割増しがありますが、平成 28 年度は 1.17 倍、平成 29 年度は 1.16 倍、平成 30 年度は 1.1 倍に学生数を絞っていかなくてはなりません。習志野市に来ている学生に習志野の良さをもっとアピールしていかなくてはなりません。習志野市の企業に就職してもらうように、積極的に働きかけをしていく必要があります。
会長	田村副会長から商店街の活性化及び婚活支援、未来都市づくり、一人一人の人的資源の掘り起こし等についてご意見いただいておりますが、こちらはどのような答えになっていますでしょうか。
事務局	商店街の活性化は、18 ページに「地域産業の競争力強化」で具体的な施策の⑥に「商店街共同事業」を記載させていただいております。（エ）「地域産業の競争力強化」に入れてあり、その中で書いていければ良いと思っています。
副会長	内容を具体化していただければと思います。
寺木委員	整合性を図ることが難しく、指標化して値の評価をすると面倒なことが起こると聞いています。この手の話は質的な話がほとんどであり、予算がいくら等の話をしてもあまり意味がありません。「KPI や基準値や目標値をこれから設定する」と書かれていますが、その辺りを上手く記述された方が 5 年後に苦労なくてすむと思います。質的な評価の表現は難しいとは思いますが、工夫していただければと思います。

事務局	前回お示しした総合戦略の骨子案について「習志野らしさを感じなかった」というご意見をいただきました。どこで習志野らしさを一番押していくかを考えた時に、子育て、教育を前面に持ってくるということで基本目標の順番を入れ替えさせていただきました。具体的な施策の記載につきましてはこれから検討します。 18 ページの「企業誘致の推進」で、地方企業等サテライトオフィスの誘致についてご意見をいただいておりますが、習志野市はオフィスビル自体が非常に少なく、今後どうしていくかも含めて検討してまいります。 また、「地域資源とは何ですか」とのご質問がありましたが、習志野市は人材、大学についても知的資源として捉えています。伝わりにくい部分があるため表現を詰めていきたいと思います。 さらに、「公園が乏しい」との意見が多く聞かれます。魅力的なまちとは、を考えたときに公園についての声が多く挙がっています。 14 ページの「魅力あるまちづくりと交流人口の増加の推進」で「人々が憩う緑の空間づくり」との施策を入れていますが、具体的な内容を庁内で検討していきます。公園の整備は行っている、魅力ある公園や緑の空間につながり、若い人たち・子育て世代にどのように思ってもらえるかを考えていくことが必要です。 就職時の家探し、若者の定着・定住促進に関しては、袖ヶ浦団地活性化事業において資産管理課を中心に千葉工業大学と取り組み、検討していきたいと思います。
会長	この段階で委員からアイディアがございましたら、よろしく願います。ここまでは前回の意見に対する対応ですが、全体を通したご意見等を伺えればと思います。 これから柱に沿って KPI を設定していくと思いますが、各課から上がってくる数値をまとめるだけなのか、それとも一点突破で向かっていくような方針を決めて、市長等がリーダーシップをとって進めていくのかで違いがあるかと思います。今のままだと各課から挙がってくる意見を釣り上げるようになり、どこに魅力があるのかわからない状況になりかねません。どこから行うのかを決めることが大切です。委員の意見を参考にし、魅力あるものにしたいだけだと思います。 他市で行っている取組、まずは市の職員が市に住みたいと思う取り組みをしたら面白くなるのではないのでしょうか。その辺りもアクションプランで示してほしいと思います。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

時田委員	JAに勤めている関係で、都市型農業の推進とありますが、農地をどのような形で活用すれば魅力あるまちづくりができますか。そのような方向性を探った方が良いかと思います。都市型農業で野菜を育てるとの発想ではなく、農地と緑の空間を作れば人が集まるかと思います。 今後、公共施設の再編、あるいは公共施設の老朽化した部分を改修することが必要になりますが、市の人口は約16万人、生産年齢人口は約60%であれば、税収減のことは考えなくて良いと思います。覚悟が必要なこととなりますが、多額の予算を公共施設の改修につぎ込む、一方で人々の要望に応えていくこととのバランスとはどのように考えていますか。 これからの暮らしには我慢が必要であり、その中でどのように未来都市をつくっていくか、市民意識の醸成が必要ではないでしょうか。私だけではなく、社会のことであるから、将来のために市民意識を高めなければならないと思います。
事務局	基本構想の将来都市像で「未来のためにみんながやさしきでつながる」を謳っています。将来の世代へ負担を先送りしないということもやさしきで、つながるということであり、時田委員がおっしゃったこととリンクしています。
師橋委員	都心に近い場所でどのように農業をするのか、20年、25年先に行くビジョンで野菜工場や地産地消のように未来型農業が可能であれば、都市型農業といえるのではないのでしょうか。
会長	つくば市では、従来の市民農園に小屋をくっつけて滞在型農園にしたところ、かなりの高倍率で応募がありました。仕事をリタイアして農業をする方が多くなっています。育てた野菜を地域の中で消費し、他市に比べて食料自給率を高くし、都市の持続性のKPIに繋がれば魅力的になるかと思います。
寺木委員	2ページにPDCAサイクルの記載がありますが、そのチェックが今後作るKPIになるかと思います。基本構想の計画自体が平成37年までということを考えても、中間段階でチェックするベンチマークという位置づけがないと辛いのではないのでしょうか。現実的なところを抑え、確実に実施すれば習志野市の未来につながる、そういったものを作ってほしいと思います。そのためには、ある程度の年月が必要で、5年では短いと感じます。10年で考えて5年後に中間チェックをして足りない所はテコ入れをしなければ実現しないと思います。
会長	

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	今のところは、先程お話があったアクションプランを含め、2ページの基本構想の中での各個別計画と連携し、どのように進んでいくか、と具体的にどのような形になるかご理解いただきたいと思いますので、事務局から補足の説明をお願いできないでしょうか。 前期基本計画というものが平成26年から平成31年までの6年間の計画になっています。基本構想は12年計画になっています。平成27年中にスタートする総合戦略は前期基本計画と合わせた形になります。2ページに各分野の個別計画を掲げていますが、この中で公共施設再生計画以外は全て今年度からスタートしています。各計画の策定までに各事務分野の所管で調査等を行っていますので、そのような内容を総合戦略に寄与していきたいと思います。公共施設再生計画等、長期の計画もありますが、総合戦略は5年間の計画になっています。ただ、先行型交付金を活用した事業のKPIの設定については、平成27年度中に事業が完了して示せる指標にすることになっています。KPIの設定については肝になっているため、もう少しお時間をいただいて検証したいと考えています。中にはKPIは効果が出ないものがあるかと思っていますので、その場合は変更していきたいと思います。
会長	今の説明からすると、国が二枚舌になっているところがあるかと思っています。国には少なくともこれまでの補助金とは違い、きちんとした仕組みづくりをしていただきたいと思っています。しかし、一方でKPIでは短期的効果が出ないものは直ちに直すというのは違う気がします。今後、日本の経済を考えたとき、しっかりした仕組みづくりをしてほしいという交付金であるため、前期基本計画と整合しながら、習志野市の仕組みづくりをした方が良く考えます。
事務局	KPIを直ちに直すのではなく、事業を見直すことになります。
小林委員	計画のコンセプトはしっかり作っていきますが、来年度の交付金でどのくらい交付されるかという問題があります。 個々の事業で検討していても、楽しいことがやや少ないように思えます。地方創生の柱の一つである観光の記述が少なく感じます。市にはわざわざ遠くから来る人向けの資源が無いかもしれません。しかし谷津干潟はラムサール条約の登録地として単に保護の対象であって、楽しむための場所でなくなっておりもったいないと思います。
副会長	新しい物を誘致するには、資金や年月がかかると思います。個人的に習志

事務局	野愛が強いのですが、今あるものを利用できないのでしょうか。谷津干潟もそうですし、公園整備や「習志野きらっと」を開催しても馴染みのない人もいるかと思います。農業にしても「習志野ニンジン」という特産物を打ち出すとか、今あるものをもっと活用していくのはどうでしょうか。 市民も知らないことがたくさんあり、奏の杜など新しく入ってきた人に習志野の良さをアピールすることが必要ではないでしょうか。大学や商業施設とのコラボのようなこと、千葉工業大学の屋上に素晴らしいラウンジがありますが、一般市民も巻き込んで何かイベントをしてみるなどがあっても良いかと思います。 14ページの「魅力あるまちづくりと交流人口の増加の推進」に、まちづくり観光についての記載があります。元々、大学等の通学など交流人口はあると思っていますが、ご意見でいただいたとおり、楽しめる場が少ないというのは習志野市の意表を突く点かと思っています。「習志野ブランド」とは一体何か、この部分を掘り下げて、創出していくことが難しいことかと思っています。習志野が良いと思う市民の方は、良い物がたくさんあると言っていたき、これについてはさらに磨いていく必要があります。一方、若い人たち、子育て世代の人たちの中には、魅力的に思えないと感じている人がいます。「習志野ブランドは何か」というものを磨いていく、創っていくことが必要ではないかと思っています。 庁内でも若手職員にアンケート等を取って習志野の強みなどを聞いていますが、なかなか従来の考えから抜けるものが少なく、そこはこれから考えていかななくてはならないと思います。PRが足りないことはたくさんご指摘をいただいています。
会長	何をするかを具体的に書くのではなく、創出するために必要な体制づくり・組織づくりを書き、多様な人たちを巻き込んで戦略会議で決めたり、イベント型で決めたりする形もあるのではないのでしょうか。 都市農業に関して、小中学校の給食で連携等を行っているのでしょうか。
時田委員	給食に地元のニンジンを提供するキャロット計画があります。ニンジンの収穫時期になると普段より多く提供しています。また、農家個々の対応になりますが、学校給食を提供する市内の半分の学校へ食材を届けています。
会長	ただ食材を使用しているだけですか。それとも見学会を行うなど教育のプログラムとしてきちんと成立していますか。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

時田委員	給食室の前にはメニューが置いてあり、どこの食材を使用しているかを表示しています。年に1回、生産者を招待して農家の方と一緒に給食を食べています。
副会長	他市に比べて給食がしっかりしているため、子育て世代のお母さんの中には習志野に引っ越して子どもを通わせたいと思う人もいるかもしれません。土地を借りて農業をすることが流行していますが、新幹線に乗らなくても週末に20～30分で通えることも強みになるのではないのでしょうか。
会長	日本一給食が美味しい市は良いかと思います。
小林委員	ニンジンを用いてのPRは効果的だと思います。長野県川上村では、農家の年商が平均2千万円以上とされています。葉物しか生産していませんが、標高1千m以上なので稲作は出来ません。個々の農家に「あれを作りなさい」と指示をするわけにはいきませんが、市が何か経営が出来ると素晴らしいかと思います。
会長	市内にあるレストランと農家が連携し、習志野市のおいしい野菜プレートとして提供することはどうでしょうか。
時田委員	農家の年齢層が高く、また、市内で利用されている農地の広さが50haを割り、指定産地が追い付いていません。高齢化により農作業ができなくなってしまった農地の補助はありません。住み良いまちづくりにするために積極的に利用してもらった方が、荒地にするよりは良いのではないのでしょうか。野菜は全国どこでも作れるようになり、他の地域に押されてしまって、それが収入減にも繋がり後継者が育たなくなってきました。
小林委員	収穫量が少ない方がブランド化できるのではないのでしょうか。
会長	農地に限らず、一般的な低・未利用地をどうするかが重要です。公共施設再編で公共用地を減らそうという一方、今後も高齢者福祉施設のニーズが高まっていくわけです。施設を良い状況で使えるようにしておくのは、市としても重要な戦略だと思います。そこをどうするかが課題になります。
古賀委員	理系3大学が市にあることは良いことであると思います。地域と学生が繋がれば学生も愛着がわくのではないのでしょうか。鎌倉の事例で「ファブラボ鎌倉」というのがあり、慶応の学生と市民がものづくりをする

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	イベントを開催しています。このようなことを習志野でもすると良いのではないのでしょうか。3Dプリンターを使えるようにし、学生も市民も利用できるものづくり教室に特化しても、おもしろいと思います。 大学それぞれで取り組みをしていますが、情報が一元化されていないというところが、もったいないと感じます。私の大学でも毎年年末に「楽しい科学の広場」を開催したりしますが、おかげさまで、募集すると直ぐに定員に達してしまう状況ですが、御存じない方はご存じない状況が続いてしまっております。布川委員からもご意見ありますか。
布川委員	私も携わっている理工学教室実行委員会は、最初は千葉工業大学で立ち上げたものですが、「地域に出たい」、「学んだ技術を実践し、広めたい」と思っている学生では、なかなか出来ません。関心のある先生方は協力してくれますが、先生方も忙しい等、様々な問題があります。その問題について大学の事務局や先生方に代わって地域の人と調整をしています。ただし、学生はテスト期間や社会経験がないなど、不安定でリスクを抱えており、信頼関係は学生単体では作れないため、その信頼関係を築くために地域とつながる専門のセクションがつけられています。 先ほどの話にもあったように情報の一元化は重要だと思います。お互いに協力することは大事なので、市や3大学で連携するセクション等があるとよいと感じます。それが例えばファブラボという形で実現できればよいと感じます。確かに、自分も学生として学生に開かれている環境は基本的に平日等に限られてしまっていると感じました。土日等の利用したい時間は使えなかったりします。また、学生も設備投資したいと思っています。一般市民にも開かれた形で、市に一つ、工作、加工用の機械などが使える大学などで使えるレベルの施設があると良いと思います。
会長	おっしゃるとおりだと思います。やはり連携が必要かと思います。どの大学も市のために行っているのではなく、地域にも広く色々な人々にサービスしていくのが地域サービスです。だから習志野市や船橋市だけではなく、その意味でも連携が必要だと思います。
有田委員	企業誘致の問題があると思いますが、誘致場所をよく検討していただきたいと思います。しっかりした台地ならデータセンターなども十分可能ですが、3.11の際に工場が液状化してかなり被害があったと耳にします。そういったことを十分管理してから誘致してほしいです。 地域と企業が連携、地域と防災がタイアップし、防災の連携を十分検討し

	てほしいと思います。
会長	事務局から意見はありますか。記載している箇所等あれば教えて下さい。
事務局	23 ページの「住民が地域防災の担い手となる環境の強化」について書いてあります。その後に続く協働や連携にもつながっていく部分もありますが、市役所には危機管理課があり、防災に関して企業との連携や大学との協定を行うなど動いています。そういったことも盛り込みたいと考えています。
有田委員	住民に「見える化」をしていかなければ、学校と市役所だけでやっても市民には浸透していかないと思います。
会長	今のことに関連して意見の5番目に国分寺市の公共調達条例、障がい者雇用の取組、高齢者雇用の取組、男女共同参画取組等が書いてあります。例えば長野県では、中小企業に対して地元の消防団に事業者から何人以上協力しているところは法人税を減税している事例があります。 公共調達条例に関しては、男女共同参画をある程度推進しているという事業者に対して公共調達に向けた優先的な配慮をしています。今の事にも関連して「見える化」とインセンティブの導入をどのような形で企業誘致に向けて取り組めるかもぜひご検討いただけたらと思います。
寺木委員	都市計画では、「安心」と「安全」は使い分けをしています。「安心」は防犯で用いています。一方、「安全」は防災で用いています。人が意図的に行うことに対しては「安心」、恣意的に行うわけではない自然災害に対しては「安全」としています。 奏の杜では、防犯まちづくりの専門家が入ってたくさんの防犯カメラを設置して頑張っていますが、事業者側はもっと設置したかったそうです。監視型社会になると、お互いを信頼しないようなまちになり、最小限にしているそうです。
会長	良い所があれば積極的に書いていただけたらと思います。 安全のために防犯カメラを増やしていく話と、プライバシー、個人情報の問題点のバランスをどうするかということに関わってきます。公共施設等に設置する防犯カメラは、防犯、記録用になり、ある意味必要になってきていると思いますが、習志野市は全体的に弱く、公共施設にカメラを付けてないと思いますが、どう対応するかです。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

小林委員	出生率を上げる施策を考えていただけるとよろしいかと思います。出生数を増やすという施策が全然出てきていません。産んだら親が得をするというような施策が打ち出せればと思います。そこまでいかなくても、少なくとも3人以上いる多子家庭に優遇するような給付など。外国では現金給付で成功している例もあります。国全体で考えるべきことだとは思いますが、習志野にある3大学でも帰国子女枠が設けられているなら、多子家庭枠があってもよいと思います。
会長	習志野ブランド以外で力を入れたい等のアイディアはありますか。 皆さんがよろしければ、次回までに「ブランドっていったい何だろう」というアイディアを出していただければと思います。事務局から何かキーになるようなことがありますか。
事務局	若者の意見交換、もしくはアンケート調査をさせていただいた中でも、若者にとっての魅力とは「ゆったりさ」「適度な都会さ」「のんびりしている」等というところに価値を置いていただいています。そこが魅力なのかと思います。 習志野に魅力あるお店が少ないとのご意見いただいている一方で、若い人を引き付けるものができるとう「習志野らしさ」を失うのではと懸念を抱く方もいます。どうやってアピールして魅力を感じてもらえるかが難しいところです。例えば12ページの若者の定着・定住促進の具体的な施策に書いてある内容が習志野に足りないと感じています。子育て層も含めてですが、どういったところに魅力を感じてもらえるか、もう少し突き詰めて考えていきたいと思っています。 議題(2)その他
会長	次回の策定懇話会では、そのあたり集中してお伺いしていきたいと思います。この後のスケジュールの確認をお願いいたします。
事務局	次回の会議は、2週間後の8月27日の13時30分より開催します。 総合戦略のKPIを示した形で資料を出したいと考えています。この案自体は9月の中旬からパブリックコメントが始まりタイトなスケジュールですが、ご意見等がありましたらメールでも構いませんのでいただけたらと思います。今回のご意見等含めまして、再度検討して入れさせていただきます。10月には第4回懇話会を予定しております。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	資料は24日くらいまでには事前に送っていただきたいと思います。 総合戦略をブラッシュアップした形でお出ししていただくとのことですが、今日の皆さんのご意見を踏まえて事務局がどのように対応されているのか対応表を作成していただけないでしょうか。委員のみなさんもわかりやすいかなと思いますのでよろしくお願いします。次回はそれを踏まえてパブリックコメント前の案のところまで作って、パブリックコメントをかけてそのあと確認という流れになると思います。
時田委員	ふなばしアンデルセン公園の入場者数が全国で3位になったのはなぜですか。大阪のUSJを抜いてこの結果になったのか、みなさん研究してみたいかがですか。
会長	日本の公園ではやらせない風潮があり、例えばボール遊びはダメとされています。もう少し民間企業が関わって、商売をしながら桜の整備、木々の整備も委託することが可能であれば、もっと魅力ある公園になると思います。まさに、ふなばしアンデルセン公園は資本が入っているわけですから参考になるのではないのでしょうか。ふなばしアンデルセン公園についてはどうですか。
企画政策部長	ふなばしアンデルセン公園には何度か行ったことがあります。船橋市さんは莫大な資本投下をされていると思います。そうした財源をどうするかというのが大きな課題だと思います。 ふなばしアンデルセン公園では、資本投下を継続的にいき、規模や出来ることを変えています。当時はじゃぶじゃぶ池だけだったのが、体験が出来る箱モノ、花壇の整備をする等を行うことで人が集まってきました。当初は苦労されていました。そのバランスが必要だと思います。
会長	入場料はおいくらですか。
企画政策部長	大人900円、子供300円くらいになります。駐車場は4か所位あり、周辺道路には渋滞が発生しています。
小林委員	ふなばしアンデルセン公園は、ディズニーランドと比べ行ったことのある人のマイナス意見が少なかったことが関係しています。マイナス評価がほとんどなく、それが相対的に浮上したのが最初で、それが報道されてイメージが付いたと考えます。

第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

企画政策部長	ふなばしアンデルセン公園は、母数は少なくとも、良い評価が目立ったのでランキングが上がったようです。習志野らしさ、習志野ブランドは発信力を磨いていかないといけません。干潟のような物があっても知られてなく、干潟に来るとこんな良いことがあることを示せていません。教育レベルの高さも発信できていないため、戦略の中で考えなければなりません。
会長	近隣施設については、迷惑に感じられる方もいるはずですが、近隣に対するサービスを提供することは大事かもしれません。 そろそろ時間になりましたので、第2回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会を終了したいと思います。長時間にわたりありがとうございました。 閉 会 15 : 25 終了